

新飯能

発行 党 日本共産党
飯能市委員会
973-1091

金子とし江 972-6401
山田とし子 973-4710
新井たかみ 978-0175
滝沢おさむ 972-3875

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所416)
Mail jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

民間施設のアスベスト対策急務

党議員団が各種団体と懇談・対話

日本共産党飯能市議員団は、来年度予算編成期を前に各種団体との懇談・対話を進めています。この間、介護保険事業者との懇談(9/25号報道)を皮切りに、新日本婦人の会、学童保育飯能市連協協議会、すまのこ保育園方組、飯能民主商工会、埼玉土建飯能口支部など懇談しました。

小児救急医療体制を

子育て中のお母さん方が多く加入している新婦人との懇談では、「福祉センターの旧児童館をより利用するが駐車場がなくて大変、近いところに駐車場が必要」「公民館を子連れでも利用しやすいように」「勤労福祉センターをもっと一

般の市民にも使いやすくしてほしい」「小児救急体制の整備は急務」などの要望が出されました。

精明小校区に学童を

学童市連協との懇談では、大規模な学童への施設整備や障害児保育への実態に見合った助成の要望が出されることとなり、「この間実施したアンケート調査で100名を超す入所希望者がある中で公私格差是正を」「アスベスト調査を求められているが子どもたちの保育を委託されているのは公立と同じ。市の責任で実施してほしい」などの要望が出され



明小校区にぜひ学童を整備してほしい」などの要望が出されました。

融資制度の改善を

民主商工会との懇談では、「相変わらず不況は深刻だが、運転資金の借り入れが困難になっている。融資制度の改善や市の借換制度を作してほしい」などの要望が出されました。また、国保問題なども含めて、対市交渉を十一月初旬に計画することになりました。

岩沢6自治会長で予算要望

滝沢おさむ市議ら参加

十月十二日、加治東自治連(岩沢第一、前原、中内手、上野、六道、阿須、阿須第二)の七自治会の自治会長が、来年度予算編成に向けて、地域の要求を九項目の要望書にまとめ市長に提出しました。



市長に要望書を提出

加治東地区では、岩沢南北で区画整理が行われていますが、進捗が思わしくないため、浸水被害や雨水排水下水道問題で住民は悩まされています。また阿須東部も、いまだに下水道が整備されていません。各自治会

長は、図面等も用意し具体的な場所を説明し、「ぜひ来年度予算で改善してほしい」と訴えました。この日は滝沢おさむ議員をはじめ、岩沢住人の石田次子、内沼博史議員も参加し、一緒に交渉しました。

波 紋

黒姫山をのぞむ一茶記念館で藤沢周平の「一茶」と田辺聖子の「ひねくれ一茶」を買った。どんな一茶が書かれていたか楽しみだ。

「人それぞれ書を読んで良夜かな(山口青邨)なんて言われると恥ずかしい気がする。テレビを見て疲れて寝てしまおうのがおちだからだ」ところでどうして世の中にはパワーあふれる元気な人が必ずいるものですか。読むのも大変だといふのに「本」を自分で気軽に作ってしまふんだから。一冊はNさんの「オシヤレおやじ」で暮らして。三冊目になる自家製本で中年おやじの哀感があり肩がこらずに読めてなかなか面白い。定価二〇〇円とあるが売れたという話を聞いたこともない。もう一冊はMさんの「ハワイ旅日記」でこちらは原稿用紙で一四〇枚くらいになる大作だ。食いの話には圧倒されるが、たらふく食べながらも「いいのかなこんな一部が一人じめして・・・」と批評があるのがいい。テレビもみずに、二冊の「本」を楽しく読め、考えることのできたら「くぐりの」良夜」でした。

議会報告会

10月22日(土)
午後6時30分～

ところ **本郷クラブ**

お話 **金子としえ市議会議員**

* 9月議会の特徴や改悪された介護保険制度、下水道受益者負担金制度、有事法制のもとでの国民保護計画などから身近な要求まで、一緒に懇談しましょう。

4 総 審 議 会

大規模開発破たん 責任を公団に求めるべき

新井たくみ委員が主張

平成十八年から十年間の街づくりの骨格を決める第四次総合振興計画が市民、学識経験者、議員が参加する審議会で議論されていますが、十一日に開かれた第七回の審議会では、これまでの論議をふまえ、最終答申案が審議されました。

総合的な問題として、「簡素で効率的な行財政運営」「厳しい財政状況の中で、事業の重点化」「選択と集中」などが強調されるなかで、新井たくみ委員は、「この一〇

年間で財政が悪化した要因は、公団・西武などの大規模開発が破たんしたことだ。そのツケを財政健全化だとか行革だとかで市民にだけ犠牲を押しつけるものになっている。公団などに財政破たんの責任を求めるべきではないか。具体的に、開発に二〇〇億円も投じてきたわけだから、これから公団に返済する三〇億円は返済免除など



求めるのが筋ではないかと指摘しました。

また加藤委員などから「民間経営の手法を導入し、行政運営にあたることを明記すべきだ」などの意見が出されたことに、新井たくみ委員は、「国が構造改革と称して社会保障を切り捨ててくる中で、今こそ自治体本来の役割が求められる。地方自治体は民間と違う。地方自治の本旨を盛り込むべきだ」と主張しました。

答申案では、財政難が強調されるなかで、「受益と負担」「行革」「民間手法」「効率化」などの言葉が目立つものとなっています。

なおこの日に予定していた市長への答申は、文章整理に時間がかかった

ために、十八日に再度審議会を開いて決定することになりました。

不妊治療に

飯能市も助成を

結婚しても子どもができない夫婦にとって、頼みの綱は「不妊治療」です。しかし、医療保険の適用外になっているために家計の負担は大変なものです。少子高齢化が社会問題となっている時だからこそ、国も不妊治療を保険適用の対象にする必要があります。このようなかで埼玉県の助成制度に加えて、市独自に実施している市町村もあります。さいたま市、川越市、秩父市、深谷市、横瀬町、皆野町、両神村、都幾川村・玉川村が現在実施しています。

飯能市も助成を 飯能市も助成を 飯能市も助成を 飯能市も助成を

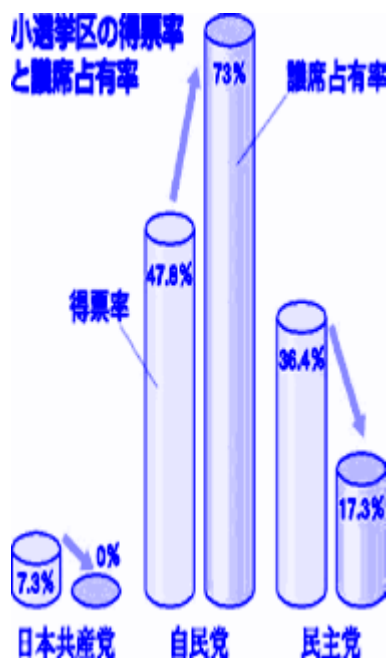


埼玉県の事業内容は、不妊治療を受けた方を対象に、一年度に一〇万円を限度に生涯二回支給されます。なお支給要件に、所得制限や指定医療機関で受診するなどあります。が、ホルモン注射から体外受精など多額の個人負担を要するものなので、是非この助成制度を活用していただくようPRしているとのこと。肝心なことは、市町村が独自に実施している場合は、要件が合えば県と市と両方の助成が受けられるということです。飯能市としても「子育てするならば飯能市」のキャッチフレーズに見合った支援策を強力に推進するべきではないでしょうか。

【県不妊専門相談センター】
埼玉医科大学総合医療センター 内電話予約 〇四九一二八二一〇
【女性健康支援センター】
入間西福祉保健総合センター (坂戸保健所内)
相談日、毎週火・金 四九一二八三一九〇二〇

自民圧勝は小選挙区制度のカラクリ

4割の得票で議席7割にも



先の総選挙で、小泉首相は、「郵政民営化の賛否を問う国民投票だ」として選挙を行い、自民党が圧勝したことで、小泉「改革」が信任されたと言っています。しかし、議席は自民・公明で八割

を占めましたが、得票率では四九%、つまり過半数ではないのです。衆院選の定数は比例代表百八〇、小選挙区三百の計四八〇。自民党が得た二九六議席のうち二一九議席が小選挙区のもので、小選挙区での同党の得票率47.8%で、73%もの議席を占めました。これに対し、民主党は得票率36.4%で議席占有率は17.3% (五二議席)。日本共産党は得票率7.3%で、議席はゼロです。得票率を議席に比例配分すると、自民党は百四十三議席ですから、実に七十六議席も「取りすぎ」たことになるのです。

郵政問題以外は、全く語らず、選挙が終わったとたんに、増税も改憲も支持されたとして、強行しようとしています。絶対に許されることではありません。